

## 概要版

### 第7回野洲市MIZBEステーションかわまちづくり協議会 会議録

開催日時 令和7年11月13日（木）  
午前10時00分～午前11時40分  
場所 市役所本館3階 第1委員会室  
出席者 委員7名中7名  
傍聴者 8名

#### 1. 開会

事務局（野洲市都市建設部 次長）から協議会成立の報告

市長挨拶

#### 2. 議事

##### （1）社会実験イベントの報告

資料1-1、資料1-2、資料1-3に基づき説明

**結果** •令和7年9月21日に実施した、社会実験イベント「やすがわMIZBE基地2025」の結果報告を行った。

#### 主な意見

A委員 売り上げや収益性の調査もされたということで、出展者アンケート見ると、想定と比べてどうだったのか（参加者・売上）という問い合わせに対して、想定より多かった・想定と同じくらいという回答が約7割、また、今後「やすがわMIZBE基地2025」のような取り組みが実施された場合また参加したいかという問い合わせに対して、ぜひ参加したいという回答が6割ということなので、参加された事業者さんには満足いただいたということか。

一方、手ぶらバーベキューはあまり申し込みがなかったという説明もあつたので、満足度については実施内容次第という理解でよいか。

また、収益性のことについて、今の得られた知見としてどのように感じておられるのか教えてほしい。

事務局 収益性の確認のために手ぶらバーベキューを実施したが、価格設定がイベントの中では最も高いものになっていたので、伸び悩んだのではないかと感

じている。もし価格が引き下げられるのであれば、需要が変わってくるかと思う。

マルシェについては、参加人数が350人程度と、ある程度の賑わいをみせており、イベント規模次第でその状況は変わってくるのではないかと思っている。

E委員 イベント当日の駐車場の状態について教えてほしい。

事務局 駐車場はヘリポート付近に約30台、高水敷約100台を確保した。当日はほぼヘリポート付近の駐車場で対応できたが、一部高水敷にとめてもらった車もある。

E委員 今回のイベント規模では混雑することはなかったかもしれないが、今後、イベントを実施していくにあたっては、130台では足りないと思うので、駐車場の整備を検討いただきたい。

また社会実験イベントを通じて、出展者の方々にアンケートを取るのは重要なことであると考える。

今後も、形を変えて社会実験イベントを実施されるのか。

事務局 社会実験イベントは、基本的に毎年1回は実施したいと考えている。

規模を大きくすることは人数的・金額的にもなかなか難しいと考えており、例えば、キャンプを試してみるなど主旨趣向を変えて実施していかなければと思う。

C委員 ここでしかできないことをするのが良いと思っており、アンケートの結果でも自然に親しめたことが満足度に繋がっていることから、やはりこの場所では、水や森を使って体験できるということがすごく貴重なことだと思った。

また、防災のプログラムも実施されたので、その部分は大切にしてほしい。

野洲川という場所で防災のことについて楽しく学び、体験してもらうことは、もしものときにすごく役に立つのではないかと思っており、自然や防災のプログラムは今後も継続して実施していただきたい。

事務局 防災の観点では、防災飯のワークショップやミニ三上山の頂上に野洲川の過去の災害のパネルを展示した。川では、実際ライフジャケットのつけ方や流されるときの姿勢などを体験してもらった。

自然や防災のプログラムも引き続き実施したいと考えている。

D委員 イベントを拝見し、一番に感じたことはとにかく広いことである。広範囲を

移動するのは大変なので、パーソナルモビリティは常設されることが望ましい。また、ミニ三上山と称するものについては既に現地あり、あれで十分ではないかと思った。森についてはもう完璧というふうに感じた。

メインの進入路はどこに計画しているのか。

また、高水敷を全面的に駐車場とすることで、防災の訓練や出初式など様々なイベントに活用できるのではないか。

防災を考えた場合に、土砂を備蓄しておく他に、コンクリートの二次製品を常設しておく。例えばL型擁壁やボックスカルバートである。

とにかくライフラインを確保するには二次製品がないといけない。土のうを積んだりすることはなかなか難しいと率直に感じた。

まず駐車場と進入路の考えを教えてほしい。

事務局 現在想定している出入口は、市三宅の住宅地から上がってきた箇所と、川田大橋付近である。こちらは車の出入りを想定している。

また、竹ヶ丘の住宅地に面する箇所と、高専整備予定地と既存森林の間に整備するクランクの道路を歩行者・自転車用の出入口として想定している。

そして、現在、市で新しく道路整備を予定している路線（市三宅妙光寺バイパス）で、この道路からMIZBEステーションへアクセスできるようにしたいと考えており、現在、協議を重ねている。

ここを将来的にはメインの入口にしたいと考えている。

駐車場については、側帯部分と高水敷、また、ミニ三上山の北側で土にはなるが、駐車場を設けたいと考えている。

D委員 ミニ三上山の大きさはどれくらいなのか。現在あるものより大きくなるのか。

事務局 現在のものよりは少し大きくなるかと思う。

D委員 現在あるもので十分と感じた。わざわざ移動させる必要があるのか。

事務局 上面利用の関係で場所を移す必要がある。当初の計画にミニ三上山はなかったが、意見聴取を経てレイアウトを見直した。

議長 市のほうからも回答願う。

事務局 野洲市の上面利用計画で、現在のミニ三上山の位置にはグラウンドを整備することになっている。グラウンド利用の支障になることからミニ三上山の位置を動かして復元してもらうことになった。

D委員 ヘリポートの近くを駐車場として計画しておられるが、ヘリポートは、常時離発着できる区域は確保しておかなければならぬ。駐車場との併用はできるのか。

事務局 ヘリポートについては併用可能となるよう計画していただいている。

(2) レイアウトの検討経過について

資料2に基づき説明

(3) 野洲川 MIZBE ステーション運営・利活用方針（案）について

資料3に基づき説明

- 結果**
- これまでの意見聴取の結果や社会実験イベントの結果等を踏まえ、レイアウトの再検討を行った経過について説明した。
  - 野洲川 MIZBE ステーション運営・利活用方針（案）について議論した。
  - 野洲川 MIZBE ステーション運営・利活用方針（案）は、協議会の専門部会（下部組織）である検討部会で議論いただいた内容を取りまとめたものである。この資料の使い方としては、今後、市で設計・施工・運営の公募を進めていくが、検討部会で議論いただいた利活用や運営を想定した提案を得るための基本的な必要要件をまとめる要求水準書に加えて、この運営方針についても参考資料として活用するものである。

**主な意見**

B委員 アーバンスポーツエリアの位置はこの場所以外で考えられないのか。

事務局 アーバンスポーツエリアについては、アーバンスポーツエリアより下流側は土取場となっており、制約が大きい場所であるため、アーバンスポーツをするのは難しいと考えている。具体的には、アーバンスポーツを行うためにはアスファルト舗装が必要になるが、土取場は災害時の土砂採取を行うため、アスファルト舗装を行うことは困難である。

また、上流側には高専の森から川に続く一体的な自然空間を設ける。それより上流は、水防センターと災害時に使用する駐車場（平常時も利用）及びヘリポートを整備する場所となっている。

このような土地利用計画からアーバンスポーツエリアの場所はこの位置しか考えられない。

F 委員 令和 10 年のオープンを目指すということで、これは高専と並行して工事を行うことになると思うので、竹ヶ丘や市三宅など、近隣の皆様方に迷惑かからないよう、地域の方と連携をしながら進めていただきたい。

また、駅周辺に大きな工事看板を建ててもらい、工事の周知及び安全対策をとっていただきたい。

また、MIZBE ステーションの認知度は高くないと思うので、PR 看板を設置するなど認知度向上に努めていただきたい。

議長 地元の皆様にはご理解を賜り御礼申し上げる。十分にご説明をさせていただいたうえで、進めていきたいと思う。

事務局 現在、琵琶湖河川事務所や滋賀県で、MIZBE ステーションや高専の基盤整備工事の方を実施していただいているところである。工事に際しては、できる限り竹ヶ丘の住宅等に配慮した工事車両の通行ルートを設定するとともに、できる限り北野小学校の通学路を避けたルートを設定していただきおり、引き続き安全対策については十分注意を払っていただきたい。

また、MIZBE ステーションの PR 不足ということについては、課題として認識しており、今後の PR 方法について検討していただきたい。

事務局 県立高専の設置については、昨年の 10 月より造成工事を進めているところである。

2 年前から、どのような高専にするのかということ、あるいはその造成工事のスケジュール等も含めて周辺自治会などに説明をさせていただいたり、工事のタイミングで適宜、資料の全戸配布や回覧をさせていただき、野洲市にご協力をいただきながら、また琵琶湖河川事務所と連携させていただきながら進めている。

今年度中に造成工事は終了し、来年度から校舎等の施設整備に着手し、現在の計画では、5 月頃から一番大きな建物になる校舎棟の整備を進めていくことになるかと思う。

造成工事については、県の直営工事ということで実施してきたが、高専は運営主体が彦根に本部がある公立大学法人滋賀県立大学（以下、「法人」という。）になる。

校舎などの施設整備については、法人が主体になる。

滋賀県としても、法人及び琵琶湖河川事務所、野洲市と連携をとりながら引き続き丁寧な説明に努めていきたい。

C 委員 知名度を上げるために、野洲市内であれば、希望ヶ丘文化公園や森林センター、マイアミ浜オートキャンプ場などと連携することも有効であると思う。

E委員 運営にあたっては、コーディネート機能がとても大切になってくると思う。コーディネーターについてはどう考えているのか。

事務局 現在は社会実験イベント等を実施し、施設のコアになる方をまずは発掘しているような状況である。そのような方に参画していただきたいと思っている。

活動されている方々を繋ぐ役割を担う人が必要であり、コーディネートしていただける方を見つけることが課題であるため、引き続き検討を進めたい。

E委員 コーディネーターには力を入れたほうが良いと思う。

野洲市には観光物産協会や社会福祉協議会など頑張って活動されている方がたくさんおられ、コーディネートできる機関はたくさんあるが、そこを繋ぎ合わせることが非常に難しいと思う。

また、コーディネーターを配置しても、そこから育成していかないといけないので、そこが難しいと思う。

甲良や愛知川などには地域おこし協力隊というものがあり、専門分野の方を取り入れたりもされているので、コーディネーターを見つけて育成をしていくところにも力を入れていただきたい。

D委員 アーバンスポーツエリアは舗装するのか。

事務局 アーバンスポーツエリアについては、スケートボードや3on3等のアーバンスポーツができるようにするとともに、スポーツ設備を移動させてマルシェでも使用できるような、多目的に使える場所を想定しているためアスファルト舗装を考えている。

D委員 レイアウトではミニ三上山周辺が土木技術研修場なっているため、ここが重機も動かせる場所になるかと思う。

建設業界で今ものすごく脚光を浴びているのは年に1回希望ヶ丘文化公園で実施される、重機の乗車や操作体験できる『けんせつみらいフェスタ』である。

希望ヶ丘文化公園では土を掘り返すことはできないが、MIZBEステーションの土木技術研修場で実施できれば、それが可能となる。

県も国も、建設業界は防災部局と協定を結んで年1回必ず訓練を行っている。訓練も民間の場所を借りることが多いので、MIZBEステーションをそのような拠点として活用することも考えられる。

また、ドラゴンハットや長浜のドームでは見本市が行われている。建設業界

でも見本市を実施したいが、滋賀県ではできる場所がないので、MIZBE ステーションの大屋根の下で実施できるのではと考えている。

そして、アーバンスポーツエリアの大屋根だが、1,660 m<sup>2</sup>では小さい。せめてこの2倍は必要と考える。

また、アーバンスポーツエリアは舗装してしまうと使い方が限られるため、舗装はせずに、山砂を入れておいて、転圧して使えるというかたちにしたほうがよいのではないか。

事務局 大屋根は試算の中での最大限の面積である。

また舗装については、アーバンスポーツエリアとしての活用を想定しているため、ご意見として承らせていただきたい。

建設業への訓練等の対応の場所として、土木技術研修場とを設定している。ご意見いただいたような内容についてこの場所で実施できるかと思う。

#### (4) 要求水準書の考え方について

資料4に基づき説明

- 結果** • 野洲川 MIZBE ステーションの上面整備を進めていくにあたっての、整備内容の考え方について議論した。

#### **主な意見**

D委員 大屋根と水防センターは相当の距離がある。運用や管理面から言えば隣接しているほうが管理しやすいと思う。なぜ駐車場側に水防センターを配置されたのか。

事務局 水防センターの位置については、ベースは防災施設であるため、災害時にいち早く駆けつけていただけるよう駐車場の隣に配置した。  
また、アーバンスポーツエリアには管理棟を設置するため、そこでの受付等も視野に入れている。

D委員 水防センターや大屋根は常に人が集まる場所だと思っている。  
アーバンスポーツについてはグラウンドエリアで実施できるものだと思うので、屋根がなくても問題ないと思う。

事務局 アーバンスポーツエリアについては、日常は、雨天でもアーバンスポーツやマルシェでの利用ができるように考えている。そして、災害時には、近隣の方の一時避難所としても活用できるのではないかということで、できるだけ大

きな屋根を設置したいと考えている。

D委員 なおさら、水防センターは大屋根に隣接させたほうが有効活用できるのではないか。また大屋根の下（アーバンスポーツエリア）は絶対に舗装しないほうが良いと思う。

土間の方が色々な活用できる。舗装してしまうと本当に使い方が限られてしまうので。

議長 舗装しければアーバンスポーツはできないと考えている。全く違うものに変えてしまうというご意見かと思うが市民ニーズでご意見があったのはアーバンスポーツであるため、それも含めてご意見ということで承る。

B委員 アーバンスポーツエリアの位置はここしかないことを先ほど確認させていただいたが、高専の図書交流・食堂売店棟という建物のちょうど前にアーバンスポーツエリアの大屋根がくるような配置になっている。

県立高専の校舎の設計上の主なポイントとして、立地を活かした学校施設ということを謳っており、具体的には、自然豊かな野洲市の中でも、野洲川に沿ったこの素晴らしい立地を活かした学校施設として、この近江富士として親しまれる三上山や、周辺森林、野洲川を望む環境において、校舎棟の教室や図書交流・食堂売店棟のテラスから三上山や野洲川を望む眺望を挙げており、学生や教員たちが、こうした景色を眺望しながら、思索にふける空間を提供することとしている。

この図書交流・食堂売店棟の2階にテラスを設けて景色を眺望していただくことを予定している。

県内外から多くの学生がこの地で学んで巣立っていくということを想定しており、この野洲の地で過ごした高専の5年間というものは本当に生涯思い出深いものになって、ここからの眺望とともに深く心に刻まれるものになるのではないかと考えている。

もちろん野洲市の方々の切望される施設であるということは十分理解をした上で申し上げるところではあるが、MIZBEステーションの隣で整備する県立高専の図書交流・食堂売店棟の2階テラスのちょうど目の前が大屋根になるということで、少なからず眺望にも影響があるのではないかと思っている。

従って、要求水準書の作成にあたっては、大屋根の設置について、校舎からの距離を、例えば少し離していただくと、眺望への影響がより少なくなるかと思う。また、高さや幅、あるいは柱の形など、県立高専からの眺望への影響が抑えられるように、できる限り可能な配慮をお願いしたい。

事務局 仰っていただいた景観の観点については、高専からの眺望も含めた「周辺景観との調和を図ること」と、一言、要求水準の中で触れたいと考えている。具体的な協議については、設計が進む中で協議させていただけるかなと思うので、そのあたりについては歩調を合わせながら進めていきたいと思う。

B委員 野洲市の方々にはいろいろとご配慮いただいているところではあるが、高専の学生にとっても大切なことと考えているため、この場で申し述べさせていただいた。

また、県とともに法人とも開校を見据えた情報共有と密接なコミュニケーションをお願いできればと思うので、よろしくお願いする。

#### (5) 今後のスケジュールについて

資料5に基づき説明

**結果** • 今後のスケジュールについて議論した。

#### 3. その他

#### 4. 閉会

以上